



湯沢城の西端部に位置し、眼下に雄勝・平鹿の平野部が一望でき、周囲からの侵入に対する監視や対面する出羽丘陵側からの烽火を確認する場所であった。



本丸の東南端に位置し、湯沢城で最も標高の高いところにあり、広さは東西約10m、南北約20mである。ここは、天照皇大神など五社が祀られ、城主が城地鎮護を祈願したと伝えられる。



城の南部に位置する馬場は、東西約30m、南北約160mの広さがあり、戦に備えた馬術の稽古施設である。また、西南の隅に土手を築いて弓、鉄砲の稽古場である矢場と星場も備えており総合的な武芸訓練の場所であった。

湯沢城址のあらまし

湯沢城は、中心市街地の東方「古館山」と呼ばれる標高約200mの丘陵地帯に築かれた中世の山城であり、東西約400m、南北約600mの規模をもつ。城の西端に位置する見張台からは、正面に鳥海山、眼下には湯沢の西部はもとより横手盆地が一望できる。

湯沢城は、鎌倉時代後期、小野寺氏によって稲庭城の支城として築かれ、稲道(1487?~1546)の代には一時小野寺氏の本拠となる。稲道の子輝道(1534~97)の代に横手城(朝倉城)に本拠を移したのちも湯沢城は雄勝の中核として機能した。

しかし、文祿四年(1595)、最上勢の攻撃を受け落城し、文祿五年(1596)から最上の武将榑岡満茂が城主となる。関ヶ原の戦いから2年後の慶長七年(1602)、佐竹義宣の秋田転封にともない、佐竹南家三代義種が城代として入り城を整備した。

元和六年(1620)、一國一城令によって湯沢城は破却されたが、本丸、二の丸、五社壇、馬場、見張台などの跡が今もその地形を残している。

湯沢市指定文化財(記念物/史跡)
昭和42年5月30日指定

発行元・問い合わせ先

湯沢市ジオパーク推進協議会事務局
〒012-8501 秋田県湯沢市佐竹町1番1号
TEL 0183-55-8195 FAX 0183-79-5057
Email geopark@city.yuzawa.lg.jp

湯沢市教育委員会事務局 教育部 生涯学習課
〒012-8501 秋田県湯沢市佐竹町1番1号
TEL 0183-73-2163 FAX 0183-72-8515
Email k-shogai@city.yuzawa.lg.jp

湯沢城址



ゆざわの歴史がここにある。
「お城山」を散策しよう。

見張台から望む鳥海山



二の丸の広さは約36m四方で、城の東北端に位置していたことから「北の砦」と称された。三方崖に囲まれ、自然地形を利用した郭が連なっている。本丸を中心とした主郭域とは幅4m深さ7mの堀切で分離されていたため、北方からの侵入を防ぐ重要な役割を担った。



本丸は東西約80m、南北約30mで、城の中核をなし、障屋を置いた所である。江戸時代の元和六年(1620)に、幕府の一國一城令により破却されるまで、城の主は小野寺氏、榑岡氏、佐竹氏と変わった。



堀は敵の侵入を防ぐため、城の周囲に掘られた溝のことであるが、山城において尾根を仕切るように作られた堀を堀切という。湯沢城にはこの他に城域の東部に大堀切を、細小路からの大手道の頂上部と馬場の南端にも堀切を設けていた。

湯沢城址マツパ

至愛宕町

矢場・星場跡

堀切跡

⑥ 馬場跡

馬洗池

菅原久太郎の歌碑
ふるさとを愛するものは
ふるさとの土に生まれよと
咏へ関古馬



至青森寺

七曲

④ 五社壇跡

③ 本丸跡

馬舎跡

……常の厩古に備え、馬の世話をする厩敷があった所。



② 見張台跡

堀切跡

① 二の丸跡

即置寺跡

至表門(細小路)

車はここで5台駐車可

前森館

多目的広場



野外音楽堂

鑑賞池

力水

「救ひ力が湧く水」として、市井に愛されている。かつては、湯築御屋敷にも引かれていた。



湯沢市役所

佐竹南家御屋敷跡

湯沢城址

